

環境学委員会・統合生物学委員会合同 自然環境分科会
第25期第1回分科会議事録

日時： 令和3年6月29日（火） 18:00-20:30

会場： オンライン会議

議題： 1. 第25期の役員決定について
2. 議事録要旨の提出に関する委員長一任について
3. 分科会委員間のメールアドレス共有について
4. 第25期の活動指針について
5. 第25期の公開シンポジウム企画について
6. その他

出席者： 池邊このみ，北島薫，恵谷浩子，大沼あゆみ，小森大輔，香坂玲，田島夏与，
深町加津枝，村上暁信，吉田丈人，大黒俊哉

(以上，名簿順，敬称略)

議事概要

議事に先立ち，世話人の池邊委員より本分科会の概要について説明がなされ，続いて出席者による自己紹介が行われた。その後，世話人の池邊委員より今期以前の活動内容と日本学術会議主催学術フォーラム(7月3日開催予定；<http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/308-s-0703.html>)が紹介された。

1. 第25期役員決定について

委員長：世話人の池邊委員より吉田委員が委員長に推薦され，承認された。

副委員長：池邊委員が立候補され，承認された。

幹事：池邊委員より恵谷委員，小森委員が指名され，承認された。

2. 議事録要旨の提出に関する委員長一任について

吉田委員長より，当委員会の議事要旨の提出については，議事要旨の案を所属委員へ回覧したのち，日本学術会議へ提出する前の最終版の承認を委員長に一任することについて説明がなされ，承認された。

3. 分科会委員間のメールアドレス共有について

吉田委員長より，メールアドレス共有が説明され，分科会内でのメールアドレスの共有は承認された。

4. 第25期の活動指針について

第25期の活動方向について委員から意見を求めた。

- ・新型コロナウイルス感染症を経験した後の社会における環境学の役割を課題とするのはどう

か。

- ・ 新型コロナウイルス感染症を専門とする委員がない本分科会で対応できるのか。環境学委員会は新型コロナウイルス感染症にかかる課題に関してどう考えているのか。
- ・ 医学系・農学系で構成されている第2部では新型コロナウイルス感染症に関して意見交換が行われている。
- ・ 自然環境と人間社会の関わりを中心とする土地利用を異なる分野の委員がいる本分科会で課題とするのはいいのではないか。
- ・ 土地利用は GLP（全球陸域研究計画）の推進と SDGs への貢献における重要課題の一つ。知の統合をリードすることにもなるのではないか。
- ・ 土地利用を課題にするにあたり、本分科会で専門とする委員も多い文化的景観も含めて議論するのはどうか。土地利用にかかる省庁の制度や規制は？
- ・ 土地利用は地方自治体の管轄。そのため、自然環境と人間社会の新たな関係を構築する流域治水において、省庁間・地方自治体・住民の連携が求められている。土木工学・建築学委員会の分科会でも流域治水はとりあげられているが、環境学の観点からの議論は少ないので、本分科会で幅広く議論するのはいいのではないか。また、文化的景観は、第24期環境学委員会都市と自然と環境分科会の提言書においても言及されており、本分科会で幅広く議論するのはいいのではないか。
- ・ 制度や規制に議論が集中しがちなので、知の統合という観点で議論が展開できないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に限らず、不確実な将来社会における環境学の役割や、環境がどう変わるのかを課題とするのはどうか。
- ・ 従前の将来社会シナリオは、新型コロナウイルス感染症を経験して人間活動のあり方が変わったことで大きく変わることが推察される。不確実な将来社会シナリオの前提条件から議論をはじめるのはどうか。
- ・ 日本学術会議においても分野が違うとなされる議論が異なる。本分科会は2つの委員会の合同分科会ならではの分野を超えた議論を期待する。
- ・ 地域住民は経験的に住んでいる地域の特性を正しく捉えている場合は多くあり、文化景観的観点において、そのような地域住民の経験を知の統合として活用・集約できないか。

5. 第25期の公開シンポジウム企画について

吉田委員長より、今年度末に公開シンポジウムを開催する提案がなされ、検討をはじめることとなった。

6. その他

吉田委員長より、第25期の活動指針のさらなる意見交換のために、8月末くらいに非公式の研究会を開催する提案がなされ、承認された。